

【7月24日はテレワーク・デイ】

オリー研究所、障害者雇用のテレワーク実態調査を実施

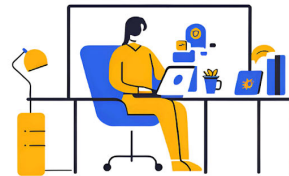
障害者にとって“場所の制約を受けない就業選択肢”が大きなメリットに

「人類の孤独を解消する」を理念とし、テクノロジーで移動困難者のはたらく選択肢を豊かにするサービスを提供しているオリー研究所（本社：東京都中央区、代表取締役 吉藤 健太郎・笹山 正浩、以下「オリー研究所」）は、7月24日の「テレワーク・デイ」を機に、障害者のテレワークに関する実態調査を実施しました。オリー研究所は、テレワークに特化した障害がある方のための人材紹介サービス「FLEMME」を提供しており、よりよい外出困難者の就労のかたちを模索すべく、今回の調査を行いました。

調査の結果、障害者のテレワークにおいて、下記3つの特徴的なポイントが浮かび上がってきました。

障害者のテレワークにおける3つの特徴

- ・ 場所の制約を受けない就業選択肢
- ・ 通勤の負荷軽減・業務への集中しやすさ
- ・ コミュニケーションのメリット・デメリット



©2024 OryLab Inc.

場所の制約を受けない就業選択肢

- 「「出社範囲に応募できる求人がないことが解決できる」や、「「居住エリア以外の就職・転職の選択肢が得られる」といった“「場所の制約を受けない就業選択肢”について、半数以上の回答者がメリットとして挙げている
- 特に1都3県を除く地域ではその傾向が顕著である

通勤の負荷軽減・業務への集中しやすさ

- 「「テレワーク就労をしてみてわかった、これまで気づけなかった点」については、“「通勤における体力消耗・ストレス負荷が少ない”や、“「テレワークでは出社よりも業務に集中できる点”などが多く挙げられている

コミュニケーションのメリット・デメリット

- テレワークにおけるコミュニケーション面に関しては、メリットとして「コミュニケーションのストレスやトラブルが減る」を選んだ回答者が50%、デメリットとして「コミュニケーションがとりにくい」を選んだ回答者が41%と、**メリットデメリット双方感じている結果**となった
- 自由回答より、テレワークにおいては“**言語化や自発的な発信、コミュニケーションの実施**”が**重要**であることがわかった

調査の概要

調査期間：2024年6月29日

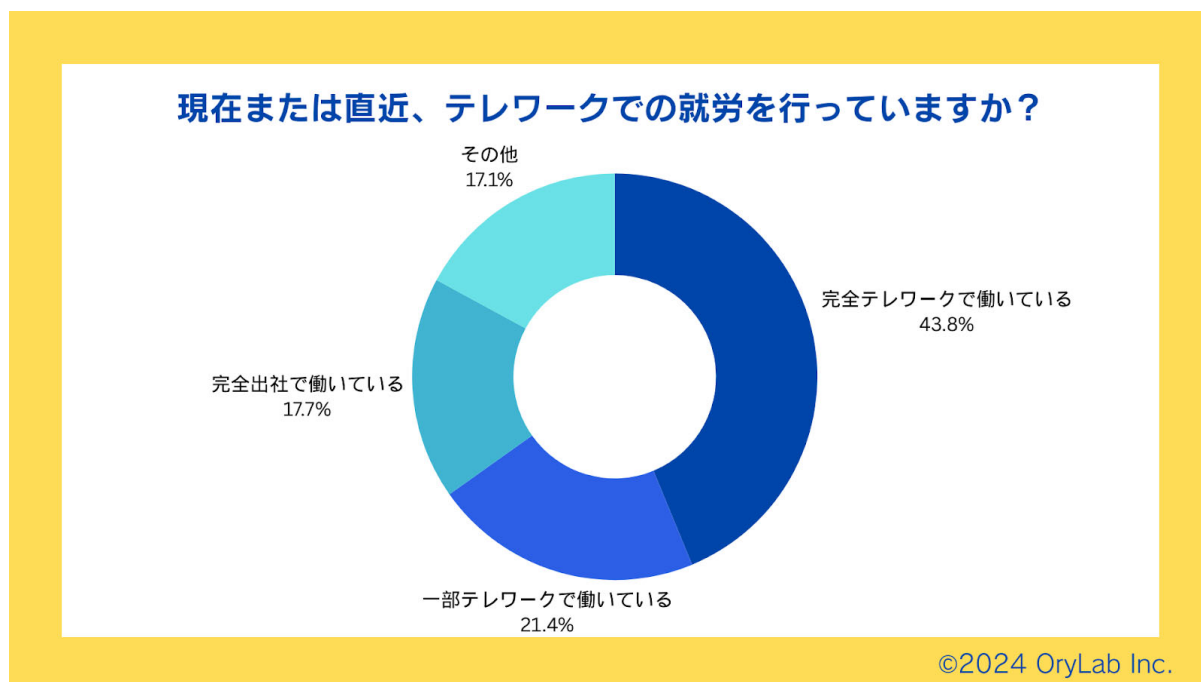
調査対象：

テレワークに特化した障害がある方のための人材紹介サービス「FLEMEE」サービス登録者

調査方法：WEBアンケート

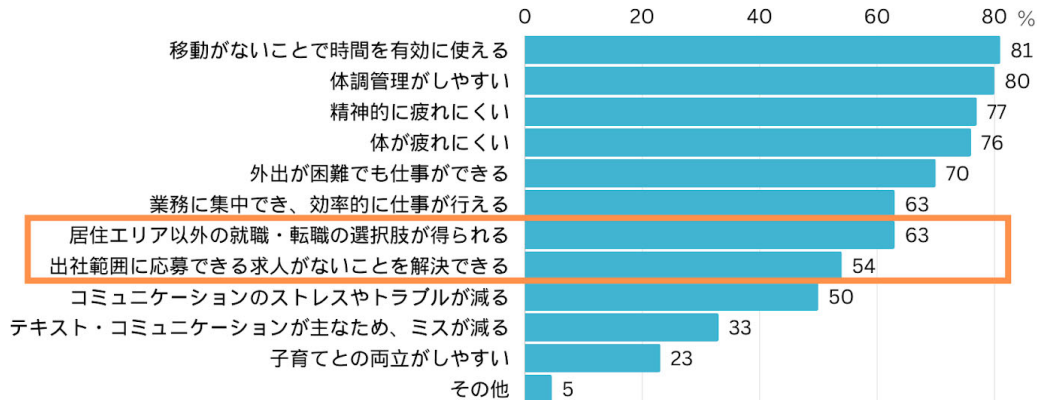
有効回答数：108件

調査の結果



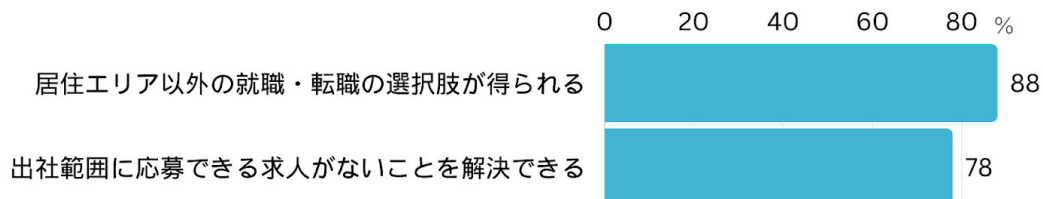
FLEMEE登録者においては、何らかの形でテレワークでの就労を行っている回答者が過半数という結果になりました。

テレワーク就労においてメリットだと思うことを 下記より選択してください（複数回答）



©2024 OryLab Inc.

テレワーク就労においてメリットだと思うこと <1都3県を除く地域での割合>



**特に1都3県を除く地域で
“場所の制約を受けない就業選択肢”に関する回答が顕著**

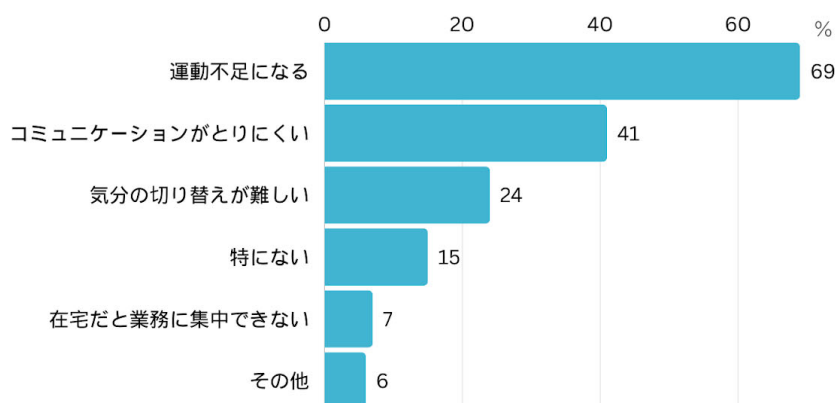
©2024 OryLab Inc.

特に1都3県を除く地域においては、「出社範囲に応募できる求人がないことが解決できる」や、「居住エリア以外の就職・転職の選択肢が得られる」といった“場所の制約を受けない就業選択肢”をメリットと選んだ回答者が7割を超えました。

テレワーク就労のメリットに関する自由回答抜粋

- 障害により、通勤だけでなく周りに人がいる環境自体が強いストレスになるため、自宅で勤務できること自体が合理的配慮になる。
- 身支度や通勤の時間がカットできて、自分の自由になる時間が圧倒的に増え、家事や趣味に費やす時間がきちんと確保できるようになったこと。心身共に余裕のある生活が実現できて、きちんと自炊したり眠れるようになり、人間らしい生き方ができるようになりました。幸福度、QOLがものすごく上がりました。もう出社して働くなんて無理！一生成在宅勤務をしたいです。そう思うほど人生が180°変わりました。
- ストレスが減り、朝しんどくても休まず「出勤」して仕事をする事ができること。私でも仕事を続けられるという自信が持てるようになったこと。
- 通勤に割く体力、精神力、時間が必要ないため余力が生まれ安定して業務を続けられる。業務に集中するための自己管理能力が高まる。自主的に効率よく働くために課題を見つけたり情報収集する力が付く。通勤圏外の仕事も視野に入れて選ぶことができる。
- 満員電車によるストレスがなく、体調を良好に保ちやすい。また、耳から入る情報を受け取ることが苦手だったり、短期記憶が弱い場合に、テキストベースで会話ができると後で見返して必要な情報を得ることができる。

テレワーク就労においてデメリットだと思うことを 下記より選択してください（複数回答）



©2024 OryLab Inc.

テレワーク就労のデメリットに関する自由回答抜粋

- 顔を合わせたコミュニケーションは少なくなるため、自分の体調等は自ら言葉で表現しなくてはならない
- 気軽に聞にくいので、全て言語化や自己発信が必要になる
- 自分から連絡できるタイプでないと、コミュニケーションがとりにくい（双方）。
- 対面で行えるコミュニケーションをオンラインでスムーズに行える工夫が必要になってくると思います。
- 意識的にも物理的にもスペース分けをしないと終業後も業務のことを引きずりがちになる。

テレワーク就労をしてみてわかった、これまで気づけなかった点 自由回答抜粋

- 入社メインの時はよく体調不良で休むことが多かったが、テレワークにしてからそれが格段に減った。たまに出勤して分かったことは、出勤すること自体ストレスに感じていることと、周りに必要以上に気を遣って常に気を張っていることから余計に疲れが取れずに体調不良になっているということ。
- 在宅時の仕事環境の大切さを感じました。仕事と生活をしっかり区別すると在宅でもだらけることなく勤務できています。
- テレワークでもオンライン会議などを通じてコミュニケーションをとることができること。障がいがあっても働くことが難しいと思っていたが特に問題なく働くことができるということ。
- 入社して仕事をしていた時はイヤーマフをするなどできる対策はしていても、どうしても周りの話し声が気になって集中できないことがありましたが、転職してテレワークになってからは自分の家で仕事をするので集中できるようになりました。
- 特性に負担が少ないため、思考や生活したいに余裕が生まれること。テレワーク実施企業のため、自分と同じような働き方を希望する人が大勢いると知ることができ孤独な気持ちが和らいだこと。
- 体調が多少悪くても継続して問題なく働ける。感覚過敏やパニック、不安障害を抱えている人にとっては、命綱です。子育てや介護をされている方にとってもどれほど助かることかと思います。
- 出勤勤務と違い、相手の様子を目で確認することができないから、気付いてくれるのを待つのではなく自分から発信することが求められる
- 通勤がない、様々な「伺い」がない（今挨拶すべきかとか誰かを捕まえるタイミングとか雑談に混ざるかとか）と仕事はこんなにコンパクトになるんだと思いました。逆にそういったものがないと全てにおいて自主的な管理や課題発見が必要で、とりあえず会社に着いたら何かあるという受け身でいらなくなりました。
- フル出社の仕事のときは仕事をするだけで疲れてしまい何もできなかったが、テレワークによって通勤時間が減り、資格の勉強時間を増やすことができている。テレワークによって仕事により力を注げると気づいた。

今回の調査の結果、外出困難者である障害者にとって、テレワークによって“場所の制約を受けない就業選択肢”が得られることは、働くうえで重要なファクターであることが判明しました。オリィ研究所のFLEMEEでは今後も、外出困難者のはたらく選択肢を豊かにするためのサービスや取り組みに力を注いでまいります。

【テレワークに特化した障害がある方のための人材紹介サービス「FLEMEE」について】

オリィ研究所は、身体・精神・発達障害による「就労困難者」の就労の選択肢を豊かにしていくために、テレワークに特化した障害がある方のための職業紹介サービス「FLEMEE（フレミー）」を提供しています。障害特性に詳しい専門家と障害当事者で構成されたチームで構成されており、自社ノウハウを活かした手厚いサービスを提供しています。

詳しくは、FLEMEE公式サイト（企業向け：<https://flemee.orylab.com>・求職者向け：<https://flemee.orylab.com/entry2.html>）をご覧ください。

【株式会社オリィ研究所について】

「人類の孤独を解消する」を理念に掲げ、障害・病気・介護・子育て等の理由で外に出ることが難しい「外出困難者」の選択肢を豊かにするサービスを研究開発・提供しています。

展開サービス：

- テレワークに特化した障害がある方のための人材紹介サービス「FLEMEE（フレミー）」
- 遠隔操作でありながら「その場にいる存在感」を共有できる分身ロボット「OriHime（オリヒメ）」
- テレワークでの肉体的社会参加を可能にする分身ロボット「OriHime-D（オリヒメディー）」
- 重度障害があっても目や指先などの僅かな動きだけでコミュニケーションを可能にする意志伝達装置「OriHime eye+Switch（オリヒメアイプラススイッチ）」
- 外出困難者が“パイロット”として分身ロボットOriHime・OriHime-Dを遠隔操作し、オーダーや配膳、お客様との会話など接客を行う「分身ロボットカフェ DAWN ver.β」

詳しくは、株式会社オリィ研究所 公式サイト <https://orylab.com> をご覧ください。

【報道関係お問い合わせ先】
株式会社オリィ研究所 広報 青木
E-mail : pr@orylab.com